

日本ワイナリーアワード ご案内資料



目次

1. 日本ワイナリーアワード概要

ご挨拶

日本ワイナリーアワードが目指すもの

日本ワインの現状

第4回日本ワイナリーアワード2021の開催概要

日本ワイナリーアワードの仕組み

審査基準と称号

あゆみ

メンバー紹介

2. 日本ワイナリーアワード2020について

1. 日本ワイナリーアワード概要



ごあいさつ

一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会
代表理事／アワード審議委員長 遠藤利三郎

明治初期にスタートした日本におけるワイン造りは、21世紀になり新たなフェーズに入りました。個性豊かなワインの造り手が次々と登場し、今や全国で300社を超えるワイナリーが活動しています。日本ワインが世界的なコンクールでトップクラスの評価を得ることも珍しくなくなりました。まさに日本ワインは新時代に突入したのです。

日本ワイナリーアワードは数多くの日本ワインの中から、傑出した品質を誇るワイナリーを顕彰することを目的に設立しました。従来のコンクールのように個別の銘柄に対する評価ではなく、ワイナリーそのものを評価しています。スイートルームはもちろん、スタンダードクラスの客室でも十分に満足できる、ホテルの格付けを連想されるとわかりやすいでしょう。アワードで選出されたワイナリーが生み出すワインは、クオリティーが高く満足できるものばかりです。日本を代表する珠玉のワインをぜひお楽しみ下さい。このアワードが、ワインを愛する消費者の方々が日本ワインを選ぶときの一助になることを願ってやみません。

お気に入りのワインを見つけたら、ぜひそのワイナリーを訪問してみましょう。全国各地にあるワイナリーを訪れ、ブドウ畑に吹く風を感じ、ワインと同じ土から生まれた地元の食材による料理とのマリアージュを楽しみましょう。ワインとは、その産地の気候風土（テロワール）のすべてを楽しむものなのです。



日本ワイナリーアワードが目指すもの

Our Mission —私たちの使命—

日本ワインの生産者が世界品質を生み出すための“道しるべ”になること

日本各地にワインの醸造家が増え、日々技術と品質の向上に励んでいます。
日本ワイナリーアワードは、日本ワインの醸造家の中でも傑出した品質のワインを産出するワイナリーを顕彰することで、多くの人たちに日本ワインの価値を啓発すると共に、醸造家が目指すべき品質の指標となり、日本ワイン全体のレベルが向上して、世界に認められるワインとなることに寄与します。

Our Vision —私たちのビジョン—

日本ワインが世界に認められるレベルになること

日本ワインの醸造技術が向上し評価も上がる一方で、関税の撤廃で輸入ワインとの市場競争も厳しさを増しています。
私たちは、日本ワイナリーアワードの取り組みにより、日本ワインが世界から認められる品質となり、他国の多くのワインに埋もれることなく多くの人から選ばれる存在となることを目指します。

日本ワインの現状

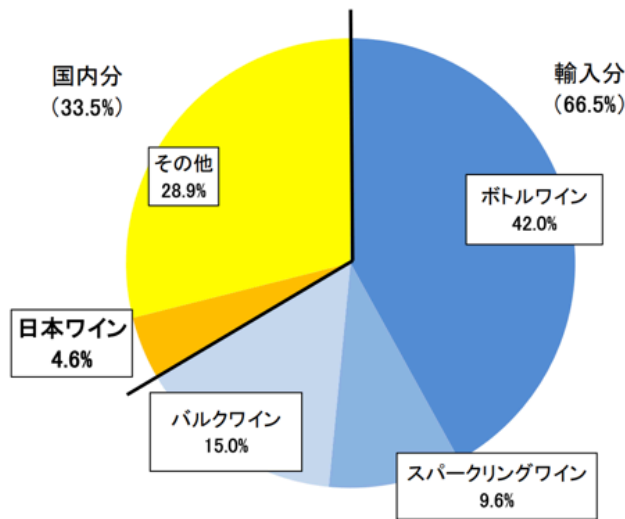
「日本ワイン」とは、日本国内で栽培されたブドウを100%使用して日本国内で醸造されたワインのこと。国税庁は2015年に日本国産ワインの表示ルールを見直し、2018年10月30日から施行しました。

現在では、海外原料を使ったワインは輸入濃縮果汁使用、輸入ワイン使用などの表示が義務付けられ、表ラベルに地名や品種を表記できなくなった一方で、日本ワインは地域で生育したブドウを85%以上使用し、ブドウの産地内に醸造所がある場合は、表ラベルにワインの産地を表示することが可能になりました。

国税庁が発表した果実酒製造業の概況（平成30年度調査分）によると、日本ワインの出荷量は減少した2019年から一転し、4.6%と増加傾向です。国内市場に置ける日本ワインの構成比は4.6%。平成27年度から調査項目に加えた日本ワインの輸出量は、年々増加しており、平成30年度において前年比24.1%の増加となりました。

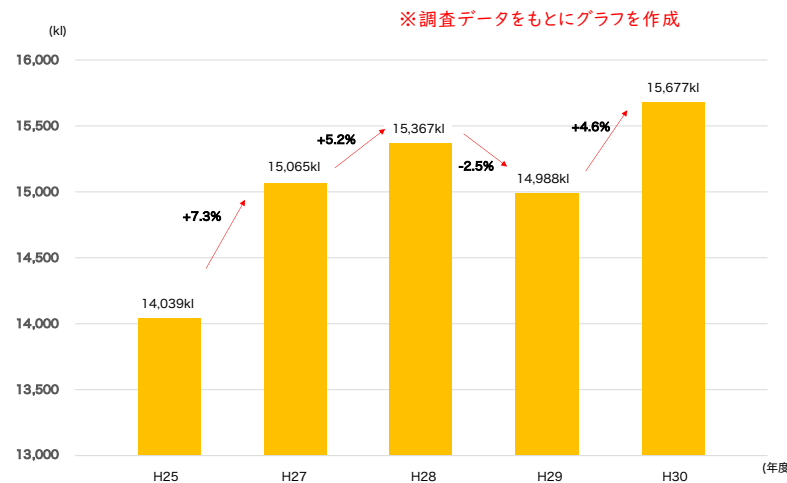
日本ワインの出荷量の増加には、安全重視で純国産を求める消費者の風潮と、日本ワインの格段の品質向上が要因に挙げられます。今後も、日本ワインの伸びは期待できるでしょう。

○ 国内市場におけるワインの流通量の構成比
(平成30年度推計値)



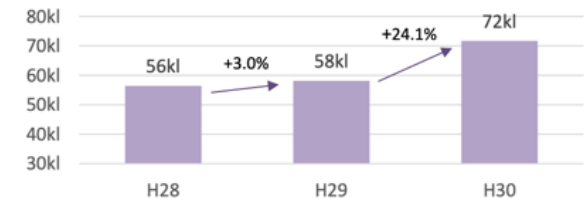
(注) 1 国内分・輸入分の構成比は、国税庁統計年報における果実酒の課税数量比である。
2 輸入分の内訳は、財務省貿易統計の輸入数量比である。
3 国内分の構成割合は、果実酒実態調査を基に推計している。

○ 日本ワインの出荷量(課税移出数量)の推移



(注) 出荷量の計数は、果実酒製造業者実態調査によるものであり、各年度によって必ずしも回答者が同一ではないため、経年比較にあたっては参考値であることに留意する。

○ 日本ワインの輸出量の推移



(注) 1 輸出量の計数は、果実酒製造業者実態調査によるものであり、各年度によって必ずしも回答者が同一ではないため、経年比較にあたっては参考値であることに留意する。
2 法人については各直前終了事業年度分、個人については各年分を基に集計している。

<参考データ出所>

国税庁 国内製造ワイン概況(平成28年度調査分) 出荷・生産の概況
国税庁 国内製造ワイン概況(平成30年度調査分) 出荷・生産の概況

第4回 日本ワイナリーアワード2021 開催概要



- 会名称: 第4回 日本ワイナリーアワード 2021
- 開催日: 2021年6月4日(金)
※リアル少人数×ライブ配信 予定
- 会場: 東京會館7Fクインス
東京都千代田区丸の内3-2-1
- 参加者: ワイナリー関係者、メディア、来賓など
※少人数の関係者に限定します
- 内容: アワード受賞ワイナリーの発表・表彰、
5つ星ワイナリーのワインの試飲、ほか
- その他: ※新型コロナウイルス感染症が継続している状況を鑑み、
昨年同様、ごく少数の関係者に限定した授賞式映像を
インターネット上で配信する、もしくはインターネット上で
授賞式を展開することを検討中。
※新型コロナウイルス感染症の情勢により、日時および会場は
変更する場合がございます

日本ワイナリーアワードの仕組み

審査対象： 設立またはブドウの植え付けから5年以上経過した国内ワイナリー（一部委託醸造を含む）

審査員： 世界各地のワインに精通し、10年以上に渡り下記のいずれかに従事するワインの専門家（ただし、醸造家は除く）

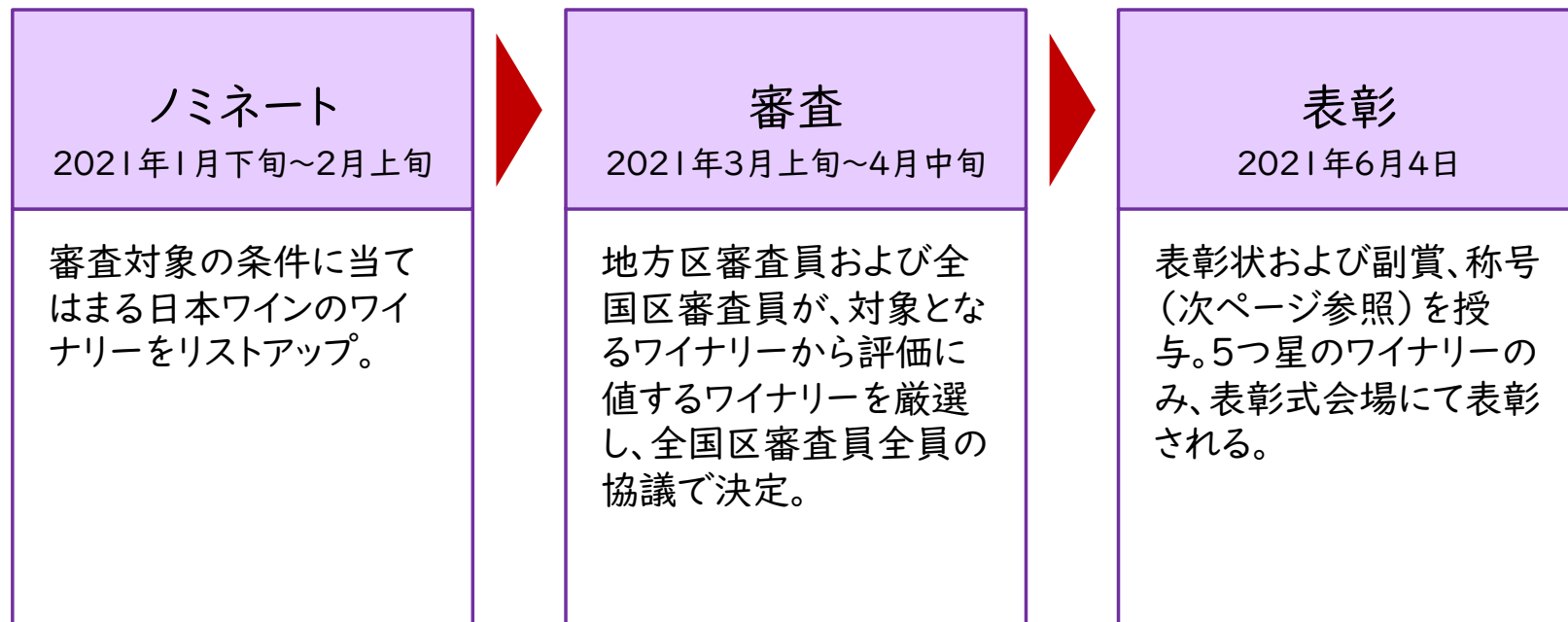
1. 日本ワインを広く取り扱う酒販店の代表者または仕入れ担当者
2. 日本ワインを広く取り扱う飲食店の代表者または仕入れ担当者
3. 日本ワインに関する著作・記事のある者

※消費者の目線に立った評価をするためにワイナリー関係者は含めない。

※審査員は2年ごとに見直す。

※各地区4名以上、主要地区は6名以上で審査。

審査方法：



日本ワイナリーアワードの審査基準と称号

日本ワイナリーアワードはワイン単体ではなく、良いワインを生み出すテロワールとつくり手に与えられる賞です。消費者に一番近い立場にいるプロフェッショナルが、世界中のワインを知った上で「この日本ワインなら胸を張ってお客様におすすめてできる」と評価したワイナリーに贈られます。

Japan Winery Award



5つ星は最高評価のワイナリー。

多くの銘柄・ヴィンテージにおいて、傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



4つ星は非常に高い評価のワイナリー。

全体的に良質で安定感があり、銘柄やヴィンテージによっては傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



3つ星は高い評価のワイナリー。

安定感があり、ほとんどのワインが良質で安心して購入できるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award

コンニサーズワイナリー

コンニサーとは、鑑定家や目利きの意味。評価に値する個性あるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

日本ワイナリーアワードのあゆみ

▼第1回 日本ワイナリーアワード



▼第2回 日本ワイナリーアワード



▼第3回 日本ワイナリーアワード



第3回はコロナ禍のため、初のリアルとオンラインの同時開催をいたしました。
会場では、3密を避け、ソーシャルディスタンスや換気、除菌体制に留意し、参加者はワイナリー関係者およびメディア関係者に限定。
オンラインではYouTubeを活用し、一般のワイン愛好家や当日参加が難しい関係者に対して、イベントの様子をLIVE配信しました。

第4回の日本ワイナリーアワードは、**2021年6月4日(金)**の開催を予定しています。

※新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を鑑み、ごく少数の関係者に限定した授賞式映像をインターネット上で配信するか、完全にインターネット上で授賞式を展開することを検討しています

※新型コロナウイルス感染症の情勢により、日時および会場は変更する場合がございます

設立メンバーのご紹介

『一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会』を設立しました

日本ワイナリーアワード 審議会は2020年2月25日、一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会として新たなスタートを切りました。本取り組みが日本各地の食と観光の振興に寄与できるよう、これからも邁進してまいります。

■日本ワイナリーアワード 審議委員長

(一社)日本ワイナリーアワード 協議会 代表理事
遠藤利三郎 / *Risaburo Endo*
[本名:遠藤誠 / *Makoto Endo*]

1962年東京生まれ。学習院大学経済学部卒。アカデミー・デュ・ヴァン講師、早稲田オープンカレッジ講師、外務省在外公館赴任前研修日本ワイン講座担当、日本輸入ワイン協会事務局長、日本ワインコンクール審査員、フードクス・ジャパン企画委員、塩尻市ワイン大学学長。ボルドー、ブルゴーニュ、シャンパーニュの3大ワイン騎士団を始め多くの騎士団から騎士の称号を受ける。著書に「ワイン事典(学研)」、共著に「日本ワイナリーガイド(新樹社)」など多数。現在ソムリエ協会会報にエッセーを連載中。ワインバー遠藤利三郎商店オーナー。

■日本ワイナリーアワード 顧問

(一社)日本ワイナリーアワード 協議会 理事
石井もと子 / *Motoko Ishii*

輸入ワインのマーケティングに関わり、各国のワイン生産者団体—NZ WINE Growers (ニュージーランドワイン栽培生産者協会)、WOSA(南アフリカワイン協会)、OWB(オレゴンワイン生産者協会)—の日本代表を務めた。傍らワインジャーナリストとして活躍。2006年よりガイドブック「日本のワイナリーに行こう」(監修・執筆)を発行、日本ワインの振興に努める。講談社「日本版ワインツーリズムのすすめ」など著作、寄稿多数。日本ワイナリー協会顧問。

■日本ワイナリーアワード 事務局長

(一社)日本ワイナリーアワード 協議会 理事
山本光子 / *Teruko Yamamoto*

1983年北海道大学法学部卒。日本リクルートセンター、西武百貨店本部営業企画室、札幌西武を経て、2001年(株)NTTドコモ北海道。販売促進担当部長、マーケティング部長。2004年(株)電通北海道。第1回日中韓観光大臣会合、洞爺湖サミット記念北海道環境総合展、エソジカ利用促進事業、アイヌ文化啓発「イランカラプテキャンペーン」、食と環境・国際フォーラム、ミシュランガイド北海道2012などプロデュース多数。2014年(株)ぐるなび。上席執行役員プロモーション部門長。京都、日本橋はじめ日本各地の食・観光関係とのリレーションが深い。2020年4月~立命館大学食マネジメント学部客員教授。北海道シガポール友好協会会員。日本広報学会会員。日本サウナ学会会員。ボルドー騎士団コマンドゥール。

2.日本ワイナリーアワード2020 について



日本ワイナリーアワードと生産者

全国にある**331場**のワイナリー(国税庁調べ)のうち、2020年は基準を満たす**235場**を審査対象として昨年は**157場**のワイナリーを表彰しました。

5つ星に輝いたのは**15場**のワイナリーです。

Japan Winery Award 2020



■北海道(2場)

ドメヌ・タカヒコ
山崎ワイナリー

■山梨県(7場)

勝沼醸造
機山洋酒工業
サントリーワインインターナショナル
メルシャン
ダイヤモンド酒造
中央葡萄酒
丸藤葡萄酒工業

■山形県(3場)

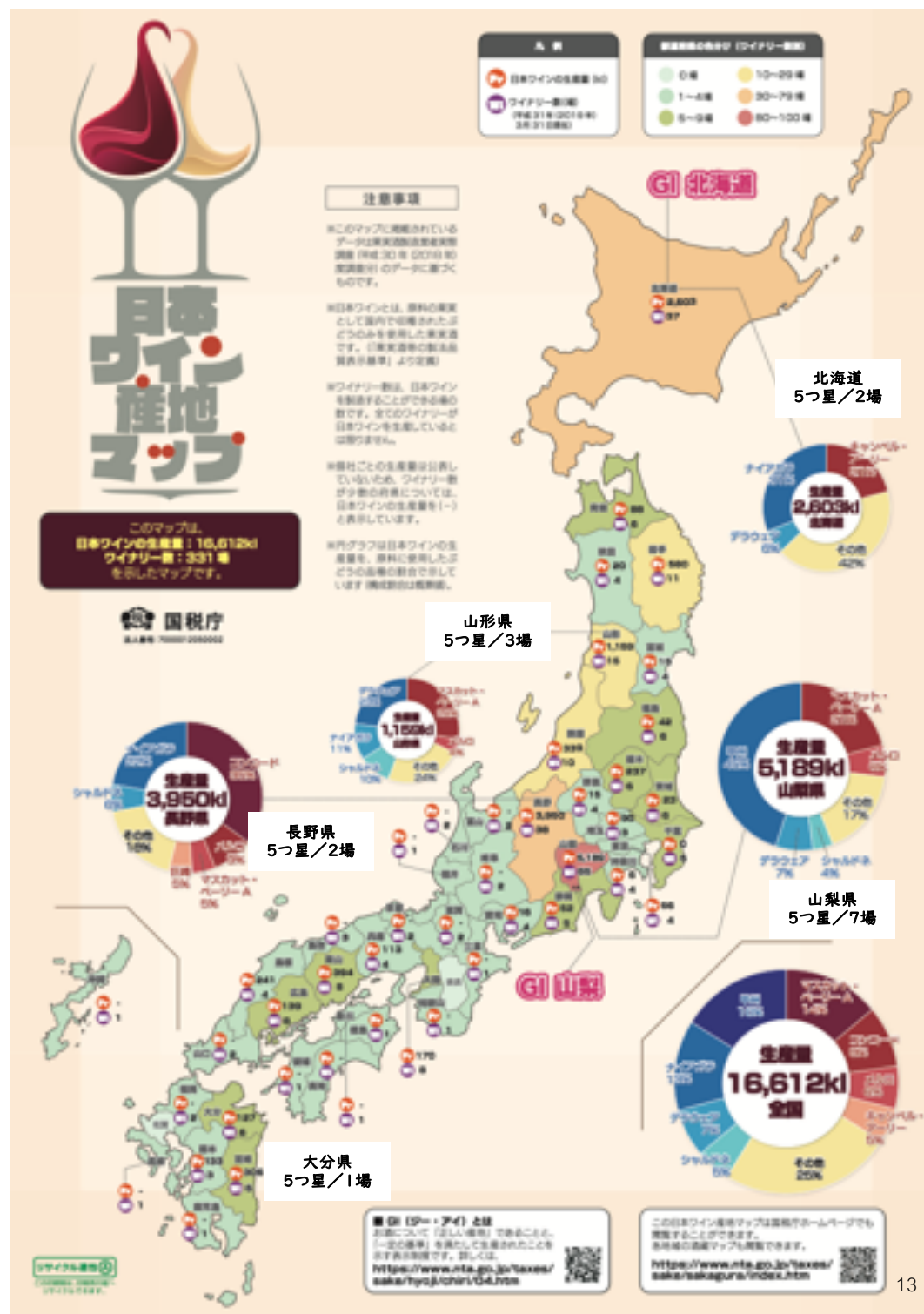
酒井ワイナリー
高畠ワイナリー
タケダワイナリー

■長野県(2場)

小布施ワイナリー
Kidoワイナリー

■大分県(1場)

安心院葡萄酒工房



日本ワイナリーアワードとメディア

2020年は新聞・雑誌・専門WEBメディアをはじめ、約20媒体の取材を受けました。

■主な新聞社(社名/媒体名)

日本経済新聞社/NIKKEI プラス
食品産業新聞社/食品産業新聞
食料醸造界新聞社/食料醸造界新聞
山梨日日新聞社/山梨日日新聞

■主な雑誌社(社名/媒体名)

ヴィノテック/ヴィノテック
ワイン王国社/ワイン王国
料理通信社/料理通信
エイ出版/Discover Japan
美術出版社/ワイナート

■主な専門WEBメディア(社名/媒体名)

IN STYLE/ワイン ホワット!?
美術出版社/ワイナート(WEB)
NIKKEI STYLE
ウォンズパブリッシングリミテッド/WANDS

【WEBメディアでの掲載事例】



日本ワイナリーアワードとメディア

2020年10月には「日本経済新聞道内版50周年記念」の
 広告記事で取り上げられました。

